

第5回 那覇空港滑走路増設事業環境監視委員会

第4回委員会の指摘事項と対応方針

平成28年1月14日

内閣府沖縄総合事務局

国土交通省大阪航空局

第4回那覇空港滑走路増設事業環境監視委員会の指摘事項と対応方針

●資料3 事後調査及び環境監視調査の概要について

項目	委員意見	対応方針
水質・底質	表層であれば、河川からの影響もあるため、浅いながらも躍層ができてきている可能性がある。サンプリングの採水方法等により、測定値がバラつくことがあるため、現場で鉛直分布を確認した上で、採水すると良い。(資料3)(桑江委員)	水質調査は、平常時を対象とし、海面下 0.5m 層より採水している。今後の調査にあたっては、採水のタイミングに配慮し、水温・塩分の鉛直方向データも加味した調査結果の考察を行う。
海域生物	海域生物については、種組成を考慮して考察すると良い。(資料3)(土屋委員長)	種組成については、資料4本編にデータを入れており、地点毎の変動をみている。種類数、個体数で変動がみられた際に考察するためのデータとして、活用している。種組成で示すことが有効と考えられる生物群(底生動物)に対してデータを整理して情報を示す。(資料4参照)
	カワツルモの生育環境について、塩分濃度は低くても生育するようであるが、今後、工事によって海水の流入が阻害され、淡水化するとカワツルモは消滅してしまうため、十分注意すると良い。(山里委員)	カワツルモについては、塩分計による連続観測も併せて行う。(資料4参照)

●資料4 海域生物の移植(サンゴ類)について

項目	委員意見	対応方針
有性生殖	有性生殖の採苗率 20%はまあまあ良い成績であると考ええる。なお、採苗率の散布図に石西礁湖などの他の結果と併記しているが、器材等が異なる場合があるので、採苗率は一概に比較できないのではないかと考えられるため、作図に使用したデータについて再確認すると良い。(資料4-1-40, 43)(山里委員)	恩納村や慶良間の調査方法、調査結果を再確認したが、那覇空港以外の地域でも同様の着床具を用いる点では、比較可能な調査結果であった。なお、恩納村、慶良間の有性生殖の採苗率は、石西礁湖に比べて着床具の設置位置等についてデータが蓄積されていない状況にあるものと考えられる。

●その他 土屋委員長から

項目	委員意見	対応方針
全体	次回からは具体的な種組成のグラフを用意すること。移植したサンゴの周辺の生物相(魚、ベントス)に関しても種数だけでなく、種の組成に関する具体的な情報があれば議論が深まる。	種組成で示すことが有効と考えられる生物群に対してデータを整理して情報を示す。
	データが多くなってくると時間が足りなくなる。次回から、委員会を3時間にしてはどうか。	委員会の時間について、検討する。